

平成29年11月24日(金)

平成29年度第1回社会生活に困難を有する子ども・若者支援者セミナー

はじめての発達障がい ～発達障がい概論～

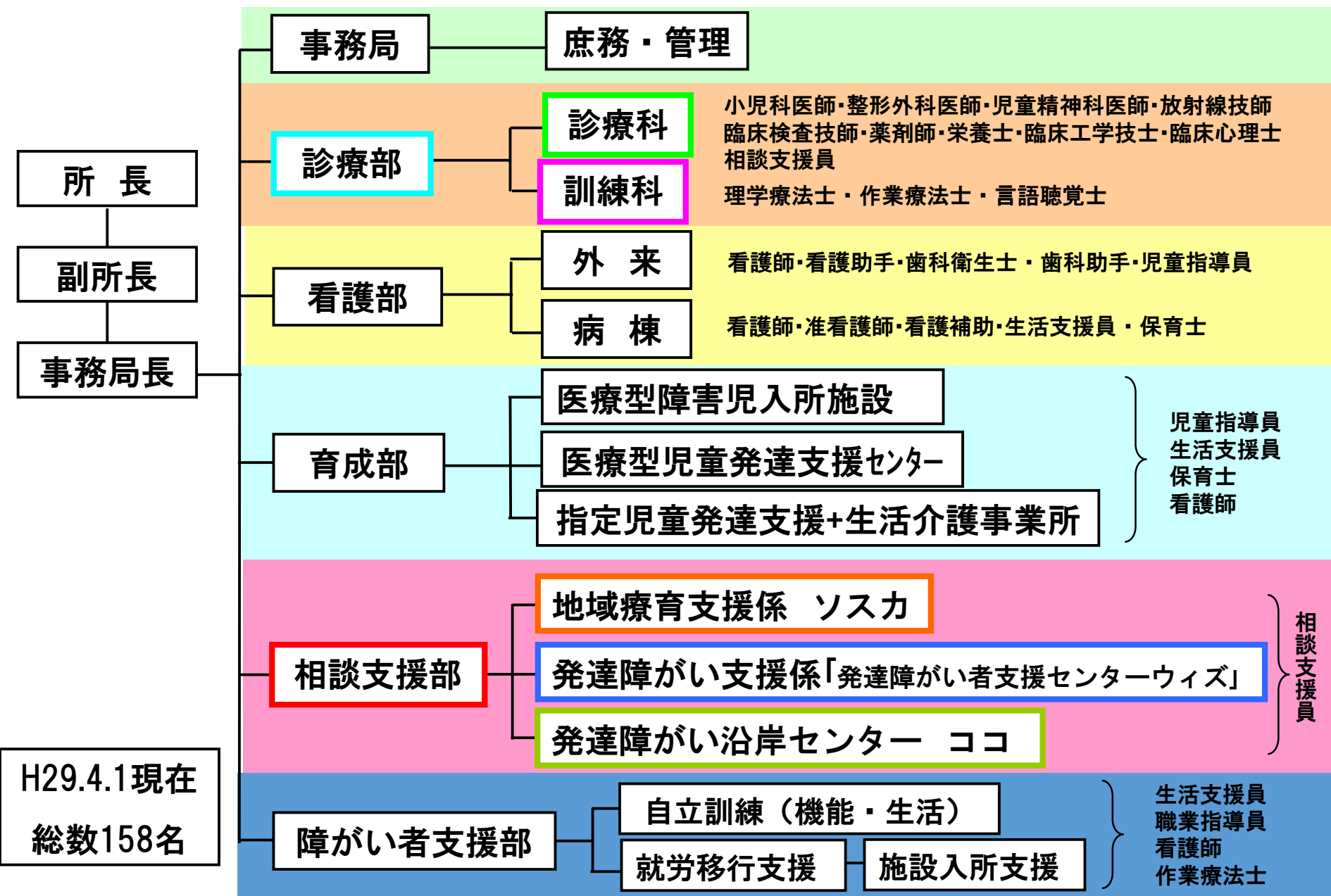
岩手県発達障がい者支援センター

発達障がい支援係長 長葭康紀



岩手県社会福祉事業団がサポートします

県立療育センター組織図



岩手県発達障がい者支援センターとは

- 月曜日から金曜日（祝日、年末年始を除く）
- 9時から17時まで
- 県内全域、全年齢を対象とする（診断の有無は問わず）



ウィズの事業

- 相談支援（発達支援）

- 相談支援（就労支援）

地域の支援を優先

- 普及啓発

- 当事者会、親の会への協力

- 機関支援

- 市町村支援

- 人材育成

現在、力を入れている部分



本日のお話

- 相談事例からみる様々な困難さ
- 発達障がいについて

相談事例からみる
様々な困難さ

発達障がいとは

発達障がい = 発達凸凹 + 適応障がい (杉山登志郎氏)

↑
↑
↑
環境において困っている
得意・苦手の差が大きい
何が苦手かで診断がつく

困っている

障がい

困っていないが
目立っている

気質

困っていない

個性

当事者のエピソード1

- 生まれた時の記憶がある。
- 息苦しく暗く圧迫された空間を抜けると、急に明るくなりとても騒がしいところに出た。これが産道を通った記憶だ。
- 小さい頃からの嫌な記憶が日に何度もよみがえり、ひどい時は頭痛や吐き気を伴い寝込んでしまう

(40代女性・AS)

エピソードからみる特徴

- 感覚的なズレ(過敏さや鈍感さ)がある
- 現在の様子から過去の嫌な記憶を思い出し、苦しむことがある
 - ⇒フラッシュバック

当事者のエピソード2

- 人を好きになるという感情が分からない。
- 小学校の時にドラえもんを見て、4年生になったら人を好きになるものだと思った。
- 4年生になって好きになる子を選んで、その子に告白したが、ふられてしまった。その時、自分は主人公になれる器ではないのだと思った

(20代男性・AS)

エピソードからみる特徴

- 解釈の仕方が独特
 - ⇒理由を必要とする方が多い
- 感情理解の苦手さ
 - ⇒目に見えないものは分かりにくい

当事者のエピソード3

- 人と話をするときに、会話が途切れると相手が困るのではないかと思い、とにかく話題を見つけて話してしまう。
- 話をするのは苦手なのに、話し始めると止められず、話し好きな人と思われ、声をかけられる。
- 話疲れて、家に帰るとご飯も食べられない。

(30代男性・AS)

エピソードからみる特徴

- 会話の質的な苦手さ
 - ⇒話せないわけではない
- 対人関係の苦手さ
 - ⇒相手を気にしないわけではない
 - ⇒人嫌いなわけでもない

当事者のエピソード4

- 言葉の誤解で退職や喧嘩を繰替えしている
- 友達と遊んでいるときに、「ちょっとコンビニ行ってくる」と言って、3時間後に戻ったら怒られたので、喧嘩したまま会わないことにした
- ちゃんと断って出て言ったのに、何を怒っているのか全く分からなかった

(30代男性・AS)

エピソードからみる特徴

- 概念の苦手さ

- ⇒言葉を字義的にとらえる方がいる

- ⇒言葉を独特の解釈で考える人もいる

- 極端な思考

- ⇒俗にいう白黒思考

- 変更の苦手さ

- ⇒こだわりにも通じる

- ⇒思考のこだわりもある

当事者のエピソード5

- ご飯を作ろうと思っても、何を作ればよいかわからない
- 冷蔵庫を開けて食材を見ても、それから何が出来
るのかイメージが出来ない
- カレーライスを作る時に何の食材が必要かを答えることはできるが、じゃがいも、玉ねぎ、ニンジン、
豚肉を見て、カレーライスが作れるとは考えられない

(20代女性・ADHD)

エピソードからみる特徴

- 整理統合の苦手さ
 - ⇒情報があっても結びつけることが苦手
 - ⇒計画立案→実行の苦手さへ
- 知っている≠活用できる

当事者のエピソード6

- 片付けをしようとするが、電話やチャイムが鳴って中断すると、片付けをしていたことを忘れてしまう
- 気になるものがあると、ずっと気になってしまい、ご飯を食べることも忘れている

(30代女性・ADHD)

エピソードからみる特徴

- 注意集中のコントロールの苦手さ
 - ⇒集中できないわけではない
 - ⇒過集中も問題

当事者のエピソード7

- 服が好きでつい買ってしまう
- 部屋の中は服であふれ、収納用のケースが20箱以上あるが、入りきらずに床に散乱している
- シーズンが変わるたびに服が収納できないので、全部捨てて新しい服を買う
- 服を買うだけで年間100万円以上必要で、常にお金がなく借金している

(30代女性、ADHD)

エピソードからみる特徴

- 衝動的な言動

- ⇒頭では理解できていることもある

- ⇒つい、うっかりやってしまうことも

発達障がいについて

国と県の調査によると

項目	文科省	岩手県
学習面または行動面で著しい困難	6. 5%	5. 7%
学習面で著しい困難	4. 5%	3. 9%
行動面で著しい困難	3. 6%	3. 6%
学習面と行動面ともに著しい困難	1. 6%	1. 8%

※国の調査は平成24年2～3月に実施

岩手県の調査は平成26年11月に実施

左利きのお話

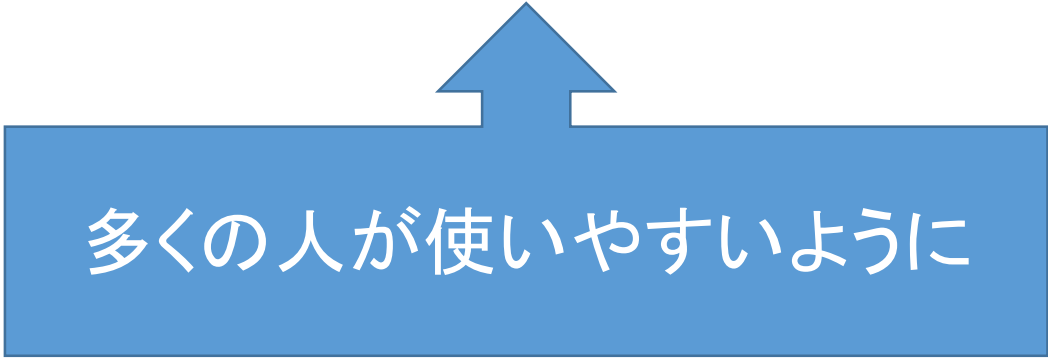
- 左利き的人是日本人に10%程度いる
(つまり10人に1人くらい)
- 日本では左利きは少数派
- 左利き的人是どんな経験をしているのか？

左利きあるあるエピソード

- 一般的なハサミや包丁が使いにくい
- 急須でお茶を入れにくい
- 人にご飯を食べているときに腕がぶつかる
- 駅の自動改札に切符が入れにくい

なぜこんなことが起きるのか

- 左利きが少数派だから
- 世の中は**便利なように**進化していく



多くの人が使いやすいように

つまり、多数派の文化

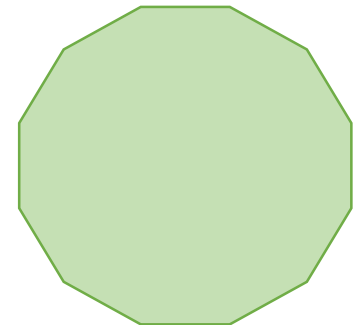
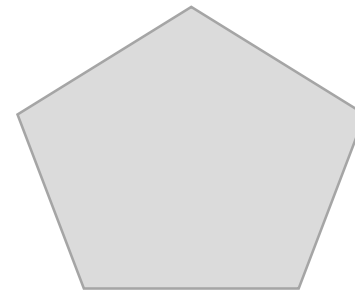
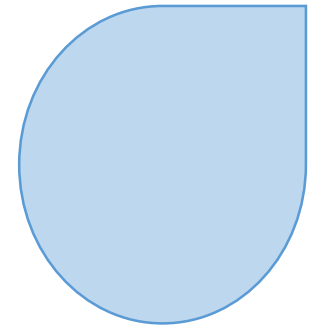
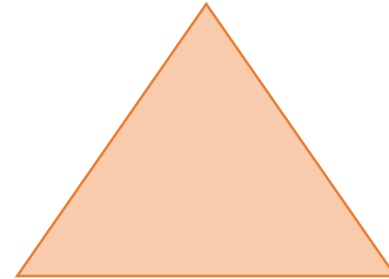
多数派の文化とは

- 多くの人が生しやすい環境
- 全員が生しやすい環境なのではない



- 少数派の人が生しやすくなるには工夫が必要

発達障がいの難しさ



発達障がいは特徴
の様子も、程度も
様々

自閉スペクトラム症

- 社会性の障がい
(対人的コミュニケーション
と相互作用の問題)
- 常同性
(限局された反復する
行動や興味)

両方を有する

- 早期に症状が出現している
- 社会的、職業的困難さを有する

DSM-5より

ADHD(注意欠如多動症)

- 不注意、多動性、衝動性の3つが特徴
- 過去半年間の様子について混合、不注意優勢、多動衝動優勢の3つの状態があり、これらは変化する
- 12歳未満で症状が見られる
- 成人期の診断基準も占めされた

LD(学習症)

- 医学的なとらえ方と教育的なとらえ方では異なる
- 医学的なとらえ方では限局性学習症(Specific Learning Disorder)とされ(DSM-5)、読み、書き、計算の障がい
- 教育的なとらえ方では、話す、聞く、推論するが加わる

どのように関わるか

- 発達障がい的人是異文化と例えられる
- 異文化交流では「通訳」が重要
- 支援者＝通訳者
- 彼らの文化を知り、自分たちの文化を彼らに紹介していく

さいごに

- 佐々木正美先生は「無知の善意が一番よくない」とおっしゃっている
- 彼らのことをよく知る（つまりはアセスメント）こそが支援の一番の基本